



野中兼山ゆかりの遺蹟「三叉」

野市町

金剛山(三宝山)の麓に広がる野市町は、昭和30年の野市町と佐古、香宗、富家村合併によって誕生しました。藩政時代に野中兼山が整備した用水路が町の中を縦横に走り、稲作が盛んな穀倉地帯として発展してきました。近年は人口増加が著しく、市の人口の過半数を占めています。

Nozomachi

夜須町

両側を山に囲まれた南北に細長い町。昭和18年町制を施行して「夜須町」となり、昭和30年に旧東川村の一部を編入しました。藩政時代の趣を残す「手船内港」や「手船盆踊り」など豊かな歴史文化が残り、県内最大の海浜公園「ヤシパーク」には、一年を通じて多くの人々が訪れています。



藩政時代に始まった「手船内港」

Yasu



「あるいばまつり」の歴史を象徴するシーロープ

吉川町

明治22年に吉原村と吉川村が合併し「吉川村」として誕生しました。物部川下流の東岸に広がる小さな村で、南は土巻湾に面し、一年を通じて花や野菜の栽培が行われ、特産のラッキョウ栽培やチリメンジャコ漁などが盛んに行われています。「桜づつみ公園」「天然色劇場」は地域文化交流の拠点。合併により「吉川町」に名称を変更しました。

Yoshikawa

赤岡町

総面積わずか1.64km²。全国で最も小さな町で、人口密度は県内第一位。藩政時代から「赤岡の市」で知られた商業の中心地で、昭和30年代まで県東部最大の商都として栄えました。旧国道沿いにはレトロな町並みが残り、「土佐赤岡どろめ祭り」や「土佐赤岡絵金祭り」の名は全国に知られています。

Akaoka



「土佐赤岡どろめ祭り」で披露された子どもたちの「絵金舞踊」

風の記憶

香南市歴史探訪①

香南市誕生の記録

- 平成18年3月1日から香南市としてスタートした5町は、吉川町が明治22年、赤岡町が明治32年、夜須町が昭和18年(30年に東川村の一部を編入)、香我美町と野市町が昭和38年に誕生しました。

歴史
概要

香南市域は、古代から中世にかけて荘園化が進み、京文化の影響を受けながら歴史を重ねてきました。近世には、野中兼山によって野市町で新田開発が行われるとともに、農業を中心とする産業が発展しました。夜須町でも兼山によって手掘りの手船内港が完成し、近世以降、香岡では交通の要として商業が栄え、近年まで周辺地域の産業・交通の中心地としてにぎわいました。

香我美町

昭和30年に岸本町と徳王子、山南、山北、西川、東川村が合併して誕生しました。高知平野の東部と山麓地帯からなる農村で、中部の山の斜面に広がる段々畑は県内外で有名な「山北みかん」の産地です。近年は半導体工場などの企業誘致が盛んで、農工一体のまちづくりを進めています。

Kagami



南国の太陽を受けて育つてきた美味しい「山北みかん」